

木山こうじ

茅ヶ崎市議会議員

子どもに
ツケを
まわさない!



茅ヶ崎市政 Topics!

子育て

柳島小学校に「放課後児童クラブ」を新設

待機児童ゼロへ。定員40名増(令和8年4月～)

柳島地区の待機児童解消に向け、小学校の空き教室を活用した新たなクラブを開設します。

効果 ▶ 受け入れ枠が約**40名**拡大。

狙い ▶ 「小1の壁」を解消し、安心して働き続けられる環境を作ります。

環境

「戸別収集」実験エリアを拡大

新栄町・東海岸北3丁目・元町へ

「燃やせるごみ」を各家庭の敷地等で回収する実験エリアを広げます。

期間 ▶ **令和8年4月1日～令和9年3月31日**

目的 ▶ ごみ出しの負担軽減、街の美化、カラス被害の減少効果を検証します。

施設

新「粗大ごみ処理施設」完成へ

令和8年4月稼働予定。安定した処理体制を確立

老朽化した旧施設に代わり、環境事業センター内に建設中の新施設がいよいよ稼働します。

開始 ▶ **令和8年(2026年)4月予定**

役割 ▶ 茅ヶ崎・寒川エリアの大型ごみ・不燃ごみを、最新設備で安全に処理します。

その他

物価高騰から市民生活を守るため、**市民一人あたり6千円分**の商品券を発行する経費や、**子ども一人あたり2万円**を給付する事業に係る費用が可決承認されました。

子育て

「こども誰でも通園制度」始動

就労要件を問わず利用可能。安全基準を条例化

すべての親子が時間単位で保育所を利用できる新制度に向け、厳格な安全ルールを定めました。本制度は**幼稚園も活用できる**ため、木山が以前より訴えてきた「幼稚園活用による子育て環境の充実」が、より強力に推進されます。

安全(ハード) ▶ 令和7年4月施行のモデル事業の基準に基づき、職員の半数以上を保育士とするなど厳格化。

支援(ソフト) ▶ 令和8年4月施行。保護者面談を必須化し、育児の孤立を防ぎます。

生活

茅ヶ崎市斎場(火葬料)の改定

将来の施設維持のため、令和8年4月より有料化へ

これまで無料だった市民火葬料を、**令和8年(2026年)4月1日より有料化**する方針が示されました。年間約**1.4億円**にのぼる維持費の確保と、利用者間の公平性を保つための苦渋の決断です。

改定額 ▶ **1体 10,000円**(12歳以上/市民)

背景 ▶ 稼働件数の増加(年間3,385件)による混雑(最大5～6日待ち)や、老朽化した設備の修繕に対応するためです。



自主防&防災リーダーとして
訓練に参加



文教大学連携ドローン自転車
交通安全実証実験



プロフィール

茅ヶ崎市議会議員・二期目 完全無所属

1982年1月4日生まれ 43歳 2児の父 防災士

- ▶ 私立関東学院大学法学部 卒業
- ▶ 元北京オリンピックテコンドー日本代表強化指定選手
- ▶ 文化教育常任委員会 委員長
- ▶ 関東若手議員の会 副会長
- 趣味:ダンス(POP)・筋トレ・サウナ・料理



公式LINE



Instagram



FaceBook



X

木山こうじと茅ヶ崎の未来を作る会

☎ 080-3004-5023

✉ kiyamakoji@gmail.com

木山こうじ

検索

SNSで日々の活動
を発信しています。
お気軽にフォロー
お願いします!



一般質問率
100%
継続中!

【一般質問(※)】をしました!

※議員が、その属する地方公共団体の行政全般にわたり、執行機関(市長等)に対し事務の執行状況、および将来に対する方針等ついて、所信を質し、あるいは報告や説明を求め、または疑問を質すこと。

■自転車交通安全教育の強化について■

QUESTION — 質問(木山)

青切符制度導入を見据え、子どもたちの命を守るための**交通安全教育を強化すべき**ではないか。

ANSWER — 答弁(教育委員会)

本市はこれまで、警察や交通安全協会と連携し、全小中学校で年1回以上の**交通安全教室を実施**している。ICT教材についても、学校がいつでも活用できるよう環境整備や情報提供を行い、**日常的な意識啓発にも努めている**。引き続き安全教育の充実を進めていく。

QUESTION — 質問(木山)

現状、行動変容を測る仕組みがなく、**効果検証ができていない**のではないか。

ANSWER — 答弁(教育委員会)

理解度や学習成果を直接数値化する仕組みは確立していないものの、授業後の振り返りや担任による日常の指導、交通事故統計などを総合的に踏まえ、一定の教育効果があると受け止めている。今後も学校や警察と連携しながら改善を進める。

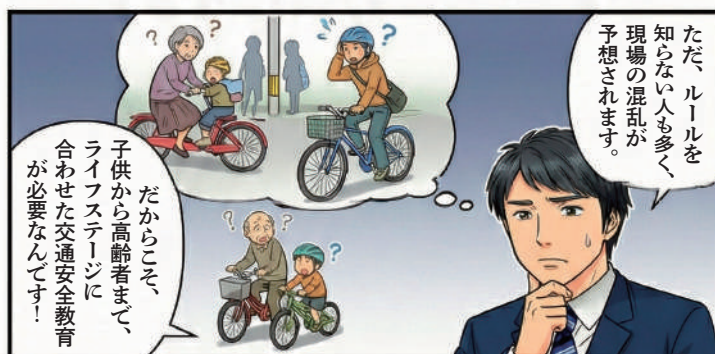
QUESTION — 質問(木山)

学校間の格差や、中学3年生など**リスクの高い年代への重点化**はどのように対応しているか。

ANSWER — 答弁(教育委員会)

学校間の大きな格差はないと認識しているが、**未実施校への働きかけや、教材の共有などを通じて均質化を図っている**。中学3年生への指導については、警察の協力もいただきながら、危険予測や自転車の安全な乗り方を学ぶ機会を確保し、引き続き安全意識の向上に努める。

自転車への青切符制度導入



「やっている」だけでは事故は減らない。子どもたちが無意識に安全行動がとれる力こそ、命を守る教育。引き続き、効果の見える教育の実現を求めます。